

S部門

(肢体不自由教育部門)

文字、言語、数量概念獲得前の教材

教材ガイド



鹿本学園キャラクター
シカちゃん モトちゃん

平成27年度 第2回作成

東京都立鹿本学園

目次

- ウニ鈴
- カウント容器
- キラキラビュンビュンこまをまわそう
- キラキラを見つけよう
- この木なんの木
- ころがして見て遊ぼう
- にじいろのさかな再現遊び
- パネルシアター1
- パネルシアター2
- はらぺこあおむしパペット
- フラッシュボールをつかもう
- ポータブルシアター
- よく見て挿して
- 絵本の読み聞かせ
- 見上げてごらん夜の星を
- 構成【福笑い】
- 大型絵本
- 着ているスモックに書きちゃおう
- 電池に穴を入れてみよう！
- 冬は光るお湯袋でリラクゼーション
- 同じ色で積み上げよう
- 不思議な袋
- 躍動感のある「おおきなかぶ」
- 鈴を鳴らそう

ウニ鈴

対象児童・生徒

五感を使うことで外界認知が高まる段階にある児童・生徒。

S 高2 A学習グループ

教育課程



ねらい

- ・興味をもつ教材で、自発的な動きを引き出しやすくする。
- ・キラキラと金属音とで活動への気付きを促す。

- ・魚釣りゲームに取り組む際、集団活動への意識をもつことが困難な生徒に向けて考えました。
- ・指に引っかけやすい市販のボールを土台にしているため、一般の鈴を握ることが困難な生徒にも鈴として扱いやすくなります。

教材の使い方 (指導方法)



- ・車いすに固定します。
- ・車いすが動くと音が鳴ったりキラキラ光ったりすることで、活動への気付きや覚醒を促します。
- ・自発的な動きがある生徒は、一般の鈴のように持って鳴らすことができます。

カウント容器

～同じの概念形成から1～3の数の理解～

対象児童・生徒

具体物と絵カードのマッチングができる。未測定の理解では、日常生活に関連する多少の理解ができる。具体物の1～3の数の学習に取り組んでいる。数と同時に色の弁別の学習も行っている。

S 中2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・ 1対1対応と手指の操作性。
- ・ 同じの概念形成から1～3の数の理解。
- ・ 色の弁別。

100円均一の毬栗と給食のゼリーカップの組み合わせでは、掴みやすさ、入れやすさ、押し込みやすさがちょうどいいです。100円均一の造花とペットボトルの飲み口部分の組み合わせでは、手指の使い方、挿しやすさ、押し込みやすさがちょうどいいです。

教材の使い方 (指導方法)

- ①数えていくつあるか聞かれて言う学習。
- ②絵カードの数と同じ数の具体物を容器（1対1対応）に入れる学習。
- ③絵カードと同じ色と数の具体物を容器に入れる学習。

数の学習では、左から順に並べたり、数えたりしました。絵カードも左端から順に並べ、具体物を取るときも、容器に入れるときも必ず左から行うようにしました。数と同時に色の弁別の学習も行えます。

キラキラビュンビュンこまをまわそう ～目と手を協応する力を育てる～

対象児童・生徒

- ・目と手の協応を図りたい児童。
- ・手の操作性を向上させたい児童。

S 小3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・手元に注目しながら、スイッチを押せる。
- ・簡単な因果関係を理解する力をつける。

作り方：サラダボールの底に穴を開け、穴にコマを入れて固定する。
教材の工夫：中の様子が見えるように透明なサラダボール用意したことや少ない力でもスイッチを押すことで回るこまを活用したこと。
児童の変化：こまのスイッチは小さいが、スイッチに手を伸ばし押すことができた。また、回っているこまにもよく注目することができた。

教材の使い方 (指導方法)

- ①教材を提示します。
↓
- ②「右手でやるよ。」と言葉かけをし、右手をタッピングします。
↓
- ③スイッチを押しやすい位置に提示します。教材から視線が逸れている場合は、ポインティングをします。スイッチに手が伸びない場合は、肘や手を支援し、働きかけがしやすいようにします。
↓
- ④スイッチを押すと、こまが回り、光や音が鳴ります。コマが回り始めたらずくにサラダボールを撤去します。
↓
- ⑤児童がコマに注目し続けることができ、こまが回り終わったら、「できたね。マル！」と言葉かけをして終わる。

※右手が終わったら、一連の流れを左手も行う。

キラキラを見つけよう ～楽しく見る力を伸ばそう～

対象児童・生徒

S 小2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

ゆっくりとビーズが落ちる様子に気づき、視線を向けたり見続けたりできる

・視点を向け続けることができるようになったらゆっくりと水が落ちるように変化させることができます。

教材の使い方 (指導方法)

- ・振ったり叩いたりして、音をだし、気づきやすいようにしてペットボトルを逆にして水やビーズが落ちてくる様子に視線を向けるようにします。
- ・落ちる水の音がするようになると注目しやすいです。

この木なんの木 ～くだものがりしよう～

対象児童・生徒

誰でも対象

S 小5 訪問学級

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・対象物に注目する。
- ・進んで手を動かそうとする意欲を育てる。
- ・数を唱えようとする意欲を育てる。
- ・課題を成し遂げる達成感を味わう。

- ・赤、黄色などはっきりした色を使う。
- ・フェルトと綿の感触が心地好い。
- ・木についている果物を全部とろうとする様子が見られた。

教材の使い方 (指導方法)

- ①「この木なんの木」の音楽で、歌を歌いながら木を登場させる。
- ②春には「いちご」秋には「りんご」冬には「みかん」を児童に触らせて感触を 楽しむ。
- ③フェルトのくだものを木に貼る。
- ④「果物狩りをしようね」と課題を伝える。
- ⑤果物狩りスタート。
- ⑥時間を決めたり、全部取るまで、など課題も伝える。
- ⑦取った果物の数を唱える。
- ⑧成果を褒める。

ころがして見て遊ぼう

～手で物に触れる力を育てる～

対象児童・生徒

机上での個別学習にも慣れてきて、提示した教材に関心を向けられるようになってきている。音がすると気付きにつながりやすいので音を手掛かりとした教材を使っている。小さい物を握って一緒に振って楽しめるようになり、緊張を緩めることができるようになってきた。少し大きい動きの玩具へと広げて学習している。

S 小1 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・音に気付いて視線を向ける。
- ・手を上手にのせることができる。
- ・一緒に動かすことができる。

作り方は

- ・ペットボトルを切って組み合わせる。
 - ・中にカラフルなビーズを入れる。
 - ・ビニールテープでしっかり留める。
- 工夫している点は
- ・見やすい明るい色のビーズにした。
 - ・色のコントラストをはっきりさせた。

教材の使い方 (指導方法)

- ①教材を振ってみせる。
- ②視線を誘導しながらゆっくり見せる。
- ③視線を向けられたら、「上手に見たね」とほめる。
- ④下に落として気持ちを玩具に向けられるよう遊ぶ。
- ⑤天板の上に置き、一緒に手で触れる。
- ⑥手の力をぬいて触れられたら、「上手に触れたね」とほめる。
- ⑦一緒に動かす。
- ⑧音に気付いたら、「おもしろいね」と歌に合わせて一緒に動かす。
- ⑨「上手にできたね」とほめて終わりにする。

にじいろのさかな再現遊び ～キラキラうろこをはがそう～

対象児童・生徒

- ・物語の内容を楽しむことができ、イメージする力が伸びつつある生徒
- ・見ること、手指の操作性に課題がある生徒

S 中3 A①学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・簡単なルールを理解し、見通しをもって活動する。
- ・手もとをよく見て手を動かすなど、目と手の協応を高める。
- ・教員とのやりとりを楽しみ、意欲的に活動する。

・ウロコは化粧用のパフにキラキラの紙を貼りつけて厚みをつけ、持ったりつかんだりしやすい工夫した。

・ウロコの裏はマジックテープまたはマグネットをつけ、実態に応じて使い分ける。また、実態に応じて紐を引っ張るタイプのウロコも用意している。

教材の使い方 (指導方法)

- ①絵本「にじいろのさかな」の読み聞かせを行う。
- ②再現遊びスタート。教員による見本を提示する。
- ③MTがホワイトボード(周りに魚の絵を貼ったもの)に実態に応じたウロコを貼り、それを生徒がはがし取る。(一人ずつ順番に取り組む。毎回同じ歌をうたってリズムを作る)
- ④取ったウロコを生徒がMTに手渡す。
- ⑤「ありがとう」の歌に合わせて一緒にダンスを踊り、できたことを喜び合う。
※③～⑤を繰り返す。



パネルシアターでお買いもの ～ぶたぶたくんのおかいもの～

対象児童・生徒

自立活動を主とする教育課程の生徒で、物を注視できる生徒からある程度数、お金の概念がある生徒までを対象としています。

S 高1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

対象物への注目や、品物の名称、数やお金の概念など、幅広く実態に応じた授業を行っていきます。

実際の授業では、実物の品物を用意したり、模型のお金を使って授業を展開します。

教材の使い方 (指導方法)

・元となる絵本があるため、その物語に沿って、パネルシアターとしてお話をを行いながら、登場するキャラクター、実物の品物を使って、興味・関心を引き出していきます。

・物語の後に、生徒の実態によって、登場した品物、買ったものなど、クイズ形式で質問したり、実物の品物と模型のお金を使って物語の中で買われたものを自分で買ってみるなどして、授業を進めていきます。

パネルシアター ～しずかなクリスマス～

対象児童・生徒

- ・対象物に注目することが苦手な生徒に、音楽や色を使いながら自分で活動できることを増やしていく教材です。
- ・自分で貼ることが難しい生徒も、曲の鑑賞時に活用できる教材です。

S 高2 訪問学級

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・対象物に注目し、手指を使って活動する。
- ・音楽の静かな雰囲気や楽器の音色を楽しむ。

- ・パネルシアターにあらかじめ白と緑のマジックテープで作ったツリーを貼っておき、飾りや雪が簡単に付きツリーが完成するようにしておく。
- ・ツリーの飾りは視力が弱い生徒でも注目でき、かつ手触りがやさしいものになるよう、はっきりとした色のフェルトで作製する。

教材の使い方 (指導方法)

- ①「しずかなクリスマス」のハープ演奏バージョンをかけながら、今からやるものを提示する（回を重ねてからは曲がかかるだけで見通しが持てるように）。
- ②「しずかなクリスマス」の曲に合わせて歌いながら、教員がツリーを飾るところを見せる。
- ③ハープ演奏のバージョンをかけながらツリーの飾りを取り、続けて生徒が活動できるよう準備する。
- ④生徒活動用のハープ演奏バージョンに合わせて教員が歌いかけしながら、生徒がツリーを飾るようにする。その際、ゆっくりでも全体に飾りや雪が貼れるよう、生徒から全体が見渡せるような位置にパネルを置く。
- ⑤形や色の違いを弁別する課題の生徒には、片づけでケースにしまう際に形・色を指定通り入れることができるようにする。

はらぺこあおむしパペット

対象児童・生徒

手元に視線が行きづらい児童～大人が提示したものを注目することができる児童
～二者択一ができ始めた児童

S 小2 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

自分で選んだ食べ物の模型を口に持って行く、もしくは大人と一緒に持って行く。

作り方

頭部は、100均のミトンを口の開閉部にし、上からフェルトと綿で立体的になるように縫って作成した。触角部も立体的になるよう、フェルトの裏に針金を貼り、起こすようにした。胴体部はドーナツ状のものを縫い、4つつなげた。

使ってみて

大きさにインパクトがあるので、児童が対象物に注目するようになった。

教材の使い方 (指導方法)

- ①あおむしに食べさせたい食べ物の模型を2～3択で選ぶ。
※児童の実態によりカードでの選択、実物での選択を行う。
- ②食べ物をあおむしの口元に持って行く。
※ものを持ち続けることが難しい児童は大人（ST）と一緒に活動をし、見通しをもたせる。
- ③あおむし役の大人が児童の目の前で食べ物を食べるようにくわえる。手元に視線が生きづらい児童には、その児童の指ごとくわえ、指先を刺激し、手元に視線が行くようにする。

※大人の手の動きによってあおむしの口元が本当に食べているように見える。食べ終わったものを隠すことはできないが、飲み込むときに大きさに動作をし、その瞬間に大人がもう一方の手で食べ物を取れば、食べ物がなくなったように見える。活動を繰り返し行う中で、児童があおむしの食べている様子をよく見るようになった。

フラッシュボールをつかもう

対象児童・生徒

つかむ・つまむ力
注視をする力
選び取る力
空間認知の力
をつけることを目標として
いる童・生徒

S 高2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ①平面上や空間に位置するボールを注視しつかめるようになる。
- ②特定の色（または光っている）ボールを選び、つかめるようになる。



トレイを台からはずしてテーブル上に置いたり
台に横置きしたりできる

教材の使い方 (指導方法)



軽い振動で光るボールを使用

- ①車いす天板上にフラッシュボールをセット。
- ②トレイを平面上に置いたり、トレイに縦置き（横置き）にする。
- ③フラッシュボールをトレイに1列に置いたり、2列に置いたり児童・生徒の学習段階に合わせてセッティング。
- ④光っているフラッシュボールをつかむ、など課題を設定して行う。

ポータブルシアター ~どこでも劇場~

対象児童・生徒

- 視力の弱い生徒や視野の狭い生徒に
- 広いスペースをとれない場所での指導時に
- 訪問の授業で訪問先に持って行って活用

S 訪問学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- 1、見えづらい生徒が手元でお話を楽しめるように
- 2、手軽に持ち運び、狭い場所でも、どんな姿勢でもお話を楽しめるように

- 1、市販のホワイトボードを劇場に。
- 2、背景や登場人物などの裏にマグネットシートを付ける。

教材の使い方 (指導方法)

天の川の西に織姫。東に彦星が。



7月7日七夕の夜。二人はめでたく会うことができました。

よく見て挿して

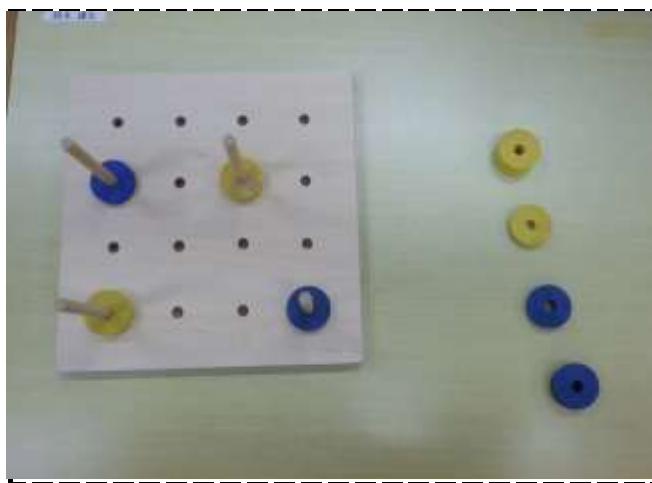
～色を区別する、見本を真似る学習～

対象児童・生徒

・対象物を触ったり握ったりすることはできて、号令で手を放すことができなかつたり、投げたてしまつたりする生徒。

・他者とのコミュニケーションがうまくとれずにいる生徒。

S 中2 自立主



ねらい

・教員が穴の開いた場所に棒を立て、見本として青色と黄色の2色のうち、どちらかの木片を1つ見本として入れる。生徒は教員の動きを真似て、同じ木片を挿せるようにする。

<工夫した点>

- ・生徒が握りやすい大きさと重さの木片を用意し、好きな色を付けた。
- ・板も持ち運びができる大きさにし、棒が安定するように厚みをつけた。
- ・右左や前後の学習に結びつくように、全部で穴を16カ所開けた。

<生徒の様子>

- ・時間はかかるが、教員の見本を真似て根気強く取り組んでいる。

教材の使い方 (指導方法)



①教員が数カ所に棒を挿し、その場所に木片を挿す。このとき、生徒の手元には、2色に色付けされた木片を用意する。

②生徒が学習しているときは、集中できるように言葉かけを少なくする。慣れてきたようなら、「右・左」「上・下」などの言葉を確認しながら学習に取り組む。



絵本の読み聞かせ ～片手でもラクラク～

対象児童・生徒

・視覚的に見ることが難しい児童・生徒

・環境把握が難しい児童・生徒

S 小2 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・リラックスしながらお話を聞く。
- ・絵に興味をもち、視線を向ける。

・抱っこをしながらでも、片手でページをめくることができ、コンパクトなので手が疲れません。

・文字を裏面に書いて紙芝居のようにすると、寝ている児童に読み聞かせをするとき便利です。

教材の使い方 (指導方法)

- ・児童を抱っこした姿勢で、片手で児童の頸を支え、もう片方の手で絵本を持つ。
- ・ベッドサイドで児童が見やすい位置で絵本を見せる。

見上げてごらん夜の星を ～鑑賞～

対象児童・生徒

・対象物を注視したり、ヘッドコントロールする力を伸ばしたい児童

S 小4 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

・光るビーズに注目したり、視線を向けたりする。

・テグスにビーズを通し、結んで止める。
・ビーズに蓄光シールを貼る。
・オーガンジー素材の濃紺色の布1m×1mに等間隔でテグスを通す。

☆部屋を暗くすると蓄光シールを貼ったビーズが光るので、注目しやすい。

教材の使い方 (指導方法)

- ・音楽の授業の最後にクールダウンする場面で使用します。
- ・BGMに「見上げてごらん夜の星を」のCDを流します。
- ・教室の電気を消し、布を一人一人の前に順番に呈示して注目できるようにします。



構成【福笑い】

～実物（完成図）を見本にして構成する～

対象児童・生徒

- ・マッチングの課題から一つ課題を進めたい児童・生徒
- ・切片パズル（手と目の協応能力を高める）などの課題ができる児童・生徒

S 小3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・実物見本や図の見本と同じに構成する。

作り方：福笑いの顔の全体を印刷し、部位ごとに切り取る。裏面にマグネットを付けて、B4版のホワイトボードに付くようにする。顔全体のベースは、B4版のホワイトボードに張り付ける。中心が分かりやすいように鼻の部位は取り付けて指導した。
児童の変化：最初は、完成に必要な部位のみで指導した。徐々に見本に必要な部位を増やして指導すると構成できるようになった。

教材の使い方 (指導方法)

- ①実物見本を呈示する。（呈示するときは、見本の位置に注意する。子供の横、子供の前方など視覚的に見やすい位置に）立てて呈示をした方が見やすいため、イーゼルを使用するのがよい。
↓
- ②はじめは、完成に必要な部位のみで行う。（目や眉毛は教員が貼る。）
→口のみ児童・生徒に渡す。
↓
- ③②の手順でそれぞれの部位ができるようになったら、2つの部位（目と口）を児童・生徒に渡す。
↓
- ④③の手順ができるようになったら、2つの部位（目と眉毛）を児童・生徒に渡す。
↓
- ⑤④の手順ができるようになったら、3つの部位（目と眉毛と口）を児童・生徒に渡す。
↓
- ⑥⑤ができるようになったら、違う顔でも取り組んでいく。また、簡単な動作模倣の課題も入れて指導する。

ぽんたのじどうはんばいき ~大型絵本~

対象児童・生徒

物に注目し続けることや、物に働きかけ自分だけでできた達成感を増やしていきたい生徒向け。

S

A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

画面を見続けたり、画面に触れることで画面が変わったり朗読が始まったりすることに気が付く。
ぽんたの行動から友達と過ごす楽しさや友達を思う気持ちを改めて考える。

- ・パワーポイントで作成し、少し動きをもたせたり、絵本以外の写真や音楽を入れたりして注目しやすいようにしました。
- ・画面が取り外せるパソコンを使用することで、生徒の近くに提示ができます。
- ・家庭でテレビを見る機会の多い生徒は絵本より注目しやすかったです。
- ・視線の高さが各々違うので、大型テレビと生徒の配置、高さには課題が残りました。

教材の使い方 (指導方法)

- ・大型テレビで絵本を見る。
- ・パソコン画面を取り外してタッチパネルに生徒が触れ、ページをめくったり、動いたり、朗読が始まったりする活動も行う。
- ・見終わったら、絵本と同じような活動を行う。(選択、スイッチ、友達との楽器演奏等)

着ているスモックに書いちゃおう ～手を動かしやすい所がキャンバスだ、いも版を使って～

対象児童・生徒

上肢の動きが、主に前後の曲げ伸ばしが中心で、特にひきつける動きが多く、机上がキャンバスとなりづらい児童。机上に比べ、自分の手前から胸元にかけては、上肢が行きやすい児童。(レット症候群など)机上で学習ができる児童でも、大きくスモックを広げることにより、机上是カバーできる。

S 小4 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



児童が着ている白いスモックが、キャンバスです。手に持つのがさつまいものスタンプです。

ねらい

- ・児童の自主的な上肢の動きを生かしながら、作品を作る。
- ・児童に両手の動きや感覚を自覚させる。

・スモックには、140～150cmサイズのワイシャツを使用しています。(リサイクル)

・白布なので、えのぐ着色も見やすく、力を入れても破れにくい利点があります。

・長袖は袖の部分を切り落として、別に腕の部分だけのキャンバスとしても使えます。(下記左の写真参照)

教材の使い方 (指導方法)

- ・ワイシャツを前後反対向きに着て、ボタンを止める。(上の写真参照)
- ・袖の部分は、利き手と反対側の腕に通して使う。



- ・生活単元学習で育てたさつまいもを切ったり、児童が握りやすい大きさのさつまいもを選んで、スタンプ遊びをする。

- ・今回は、出来上がった布をひし形に切ったのち、二つに折ってボンドで貼り、紐を通して、クリスマスの飾り(ガーランド)に仕立てた。



電池を穴に入れてみよう！

～一対一対応の練習～

対象児童・生徒

- ・物を握って操作ができる児童。
- ・一対一対応の課題を、試行錯誤しながらも挑戦することができる児童。

S 小5 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・視野を広げ、すべての穴に入れてみよう。
- ・左から順に入れて、順序性と方向性を覚えよう。（集中すると、操作している場所しか見られず、視野が狭くなっている児童に、広い視野で反対側の穴も見つけられることを狙っています。）

・だんだんに課題になれて、視野を広げていけるよう、箱を二つに分けました。

・穴は見やすいように、色をつけました。

・手ごろな大きさと、重さで、持ち応えのある、電池を使用しました。（上部に色がないのが悩みです）

・入ったことが目で確認しやすいよう

教材の使い方 (指導方法)

- ・課題別学習の時間に使用します。
- ・はじめは箱を一つ使い、利き手側に寄せ、左から一つ一つ児童に電池を入れてもらいます。
- はじめはポインティングをして、だんだんにポインティングなしでもできるようにしていきます。一人で入れられなくても、入れる場所を見ることで、できたとし、一緒に入れてもよいです。（文字・数の準備段階として、横に並ぶ1対1対応は、左から準備行い、順序性と、方向性も学びます。 アドバイス：宮城先生）
- ・だんだんに箱を中央に移動し、反利き手側に移動しても、操作ができるようにしていきます。
- ・箱を二つにして、同じように左側から電池を一つずつ入れてもらいます。
- ・箱二つを中央から、右寄せ、左寄せなどに移動して同じように取り組みます。

（一つ一つのステップをできるようになってから次の課題に進みます。）

冬は光るお湯袋でリラクゼーション ～手もとを見る力を育てる～

対象児童・生徒

- ・緊張が入りやすい生徒
- ・外界への働きかけが弱く、手もとなどを見続けることが難しい生徒

S 高3 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・手のひらにお湯袋をのせて、リラクゼーションを図る。
- ・お湯袋の温感と光の刺激を受け止め、手もとを見る

教材の使い方 (指導方法)



お湯袋をつくる時に、中にライトキューブを2～3個入れる。(水のなかに入れるとLEDのスイッチが入り光るもの。"光る氷"という商品名で売っていることもある。温冷どちらも使える)

<お湯袋の作り方>

ポリ袋は、表示を見て厚い物を選ぶ。(0.02～0.04mm)お湯は、風呂くらい(40～42℃)の温度を用意する。お湯を入れたら空気を抜くようにして袋の口を持ち、口を絞ったところまでしっ

- ・教室は、室温湿度を快適にしておく。暗幕を閉めて室内灯は消し、ドアの窓から入る自然光のみにしておく。好きなBGMを用意する。
- ・提示するときには、(お湯袋は作った時から光っているので)あらかじめ箱に入れておくか、布をかけて見えないようにしておく。生徒の目の前で、開ける。
- ・手のひらに載せる。
- ・温かさや光を楽しむとともに、手のひらに載っているお湯袋を見る。
- ・生徒の視線の動きや表情、行動の変化(身体の動きや力の入れ方、発声など)をていねいに読みとりつつ、共感の言葉かけをする。
- ・お湯袋のやりとり(手渡し)や、顔を近づける、おなかやひざの上に載せるなどの使い方もできます。
- ・大きな光るお湯袋(45リットルなど)をつくり、足をのせても楽しいです。
- ・ライトキューブは、家庭では湯船に入れても楽しめるそうです。

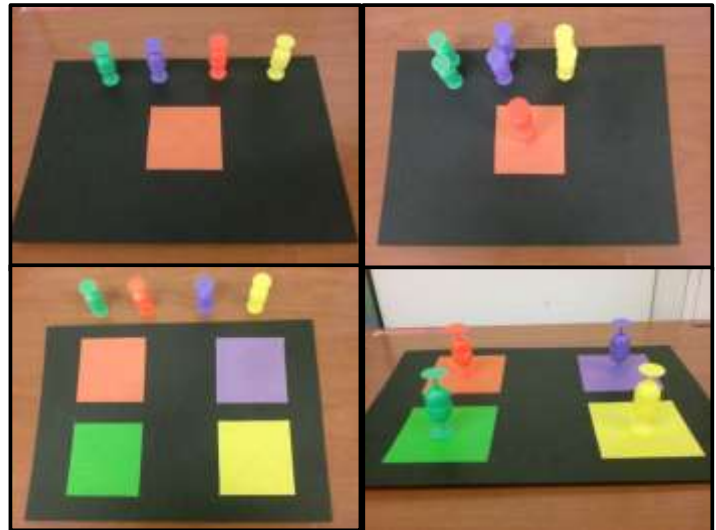
同じ色で積み上げよう ～色の弁別学習・手指の巧緻性の向上～

対象児童・生徒

色の弁別または平面にプラスチック部品を一つ一つ崩れないように積み上げていくことを学習課題とする児童生徒を対象としています。

S 高2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・色の違いに注目し、弁別する。
- ・部品を崩れないように積み上げることで目と手の協応、手指の巧緻性を高める。

- ・カップ型のプラスチック部品は100円ショップで購入し、持ち易く且つ積み上げやすいように向かい合わせに部品を貼り合せた。
- ・部品を積み上げる場合、平らな場所で課題に取り組めるように配慮する。

教材の使い方 (指導方法)

※黒厚紙に貼られた色紙と同じ色のプラスチック部品を準備する。

<例 1色の呈示 複数の色から合った色を選択>

①色紙の色と同じ色の部品を複数の色の部品の中から選ぶ。



②黒厚紙に貼られた色紙と同じ色の部品を上置く
(並べるまたは積み上げる)。

<例 4色の呈示 複数の色からそれぞれに合った色を選択>

①複数の色紙の色と同じ色の部品を複数の色の部品の中からそれぞれ選ぶ。



②黒厚紙に貼られた複数の色紙と同じ色の部品を上置く
(並べるまたは積み上げる)。

不思議な袋

～あれ？入れたものが消えた？～

対象児童・生徒

ある程度の見通しがもてる、モノの永続性をつかんでいる（衝立の後ろに隠れたモノが隠れたことがわかり覗きに行こうとする）児童が興味深く見ることができると思われる。

（自立主課程で1歳半以降）

しかし、教員の言葉かけや絵の変化などを楽しみながら見るというねらいにすれば、自立主課程全般が対象になる。（場合によっては知的代替課程の児童も対象になる。）

S 小1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

○小物を袋に入れたら、消えてなくなる、ぱっと開くとクリスマスツリーや花火などが現れるなどの予想もしない変化を感じ取る。

○「なぜ？」「どうして？」を考え、教員と言葉などのやり取りをする中でコミュニケーション能力を高める。

①黒ラシャ四つ切りに、15cm×25cmの黒ラシャを上辺に沿って中央に貼る。（Aとする。）

②黒ラシャ 四つ切り 3枚（A,B,C）を袋を作るように貼りあわせる。Aの小さいラシャが貼ってある方を内側に貼ってBと貼りあわせる。内側に両面テープを貼って貼りあわせ、大きな袋にする。それとCの上辺を黒クラフトテープで貼りあわせる。

③BとCを貼りあわせたものを大きく開き、そこに色画用紙などで飾る。（夏だと花火など）

④飾りつけた面を「貼ってはがせる糊（scotch社製）を周囲につける。2回つけるとしっかりする。

⑤A面の小さい袋に入れる、小物（折り紙の切れ端など）を作る。

教材の使い方 （指導方法）

1. 完成した黒ラシャ紙の袋を児童たちの前で見せる。「これは不思議な袋です。」「あら、ここにステッキ、そしてお手紙がありますね。」とそばにある小物を見せる。小物はあとで見せる大きな絵に関連したものになるので、いろいろ変わる。（ステッキ、手紙は一例）

2. 小物を「不思議な袋に入れますよ。」と言いながらA面の小さな袋に入れる。袋の口が開いているかどうか確かめるのはNG。さっと入れられるように練習する。

3. そして、さりげなく小さな袋の口を押えながら（自然な流れで）大きな袋を逆さまにする。「あれっ？ステッキや手紙が出てきませんね。」（話せる児童は「えー？なんで？」などと言うので、やりとりしていく。）

4. 「あれっ、あれあれ、なんかがさごそ言ってる。」と言って大きな袋を振る。（芝居っ気たっぷりに）そして、「それー、メリークリスマス！（一例）」と言ってぱっと開く。「さっき入れたお手紙はサンタさん来てください、というお手紙だったんだね。」などと言う。夏の花火バージョンなら、「バーン！花火！♪ドン！とでたはなびがきれいだな～♪」など児童が目を引くような呈示の仕方をする。

※ここで、どこを開くかわからなくなり、もたもたしていると、効果が半減する！さっとタイミングよく開けるように練習する。

※タイミングよく開くと、たいていの児童は驚いたり、うれしがったりするので、一緒に歌ったり（あわてんぼうのサンタクロース、ジングルベルなど）、言葉かけをしたりして共感しながらやりとりをしていく。

躍動感のある「おおきなかぶ」 ～パネルシアターを使って～

対象児童・生徒

読み聞かせは好きだが、絵本をずっと見続けることが難しい児童

S 小1 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



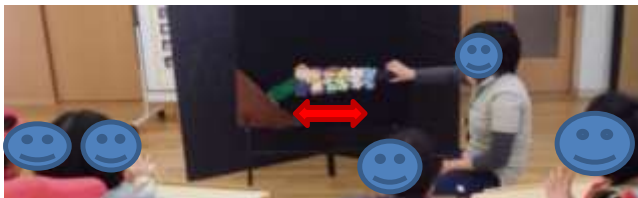
ねらい

- ・お話を最後まで見続けることができる
- ・お話の展開にワクワクすることができる

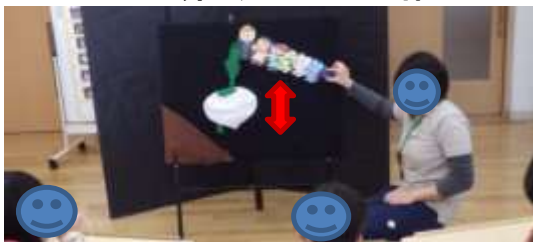
- ・登場人物のパネルの裏に磁石をつける。
- ・ボードの周りをゴムで巻き、その一方に磁石ボード、反対側にクリップをつけ、磁石ボードをクリップで止めて固定する。
- ・ボードの角を茶色いフェルトを貼って、かぶをいれるポケットをつける。
- ・ボード上部にクリップを止めておき、かぶが抜けた時に磁石ボードを固定する。

教材の使い方 (指導方法)

- ・絵本のように、パネルを貼りながらお話を読み進めていく。
- ・「うんとこしょ、どっこいしょ」の場面では、磁石ボードを左右に引っ張って躍動感を出す。



- ・お話の終わりには、とめてあるクリップを外し、ボードの上部につけてあるクリップにとめ変える。



鈴を鳴らそう ～見る力を育てる～

対象児童・生徒

・見る力を育てたい児童に向けた教材です。

S 小2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・鈴の音を手掛かりとして教材に視線を向ける。
- ・目と手の協応。

・児童の手首に合わせたアクリルテープに鈴を縫い付ける。

・鈴が鳴ることで手元の教材に視線を向けやすくした。

教材の使い方 (指導方法)

- ・教材を呈示し、「つけるよ」と言って、児童の手首に教材をつける。
- ・教材がついたことを一緒に確認して、手を動かしやすいように支援する。
- ・手元に視線が向くように促す。